

坂城でたどる戦争の記憶

～坂城から戦地へ②～

1945 → 2025
戦後 80 年
特 集
Vol.3

戦後 80 年特集第 3 弾は、前回に引き続き坂城町出身の方をご紹介します。今回は、坂城町（旧南条村）出身の滝沢光雄さんの戦争の記憶（記録）を辿ります。
（※戦後 80 年特集は今回で終わりとなり、次号より「ふるさと探訪」を再開します。）

神風特別攻撃隊

太平洋戦争の開戦から 2 年半、昭和 19 年 6 月のマリアナ沖海戦で旧日本海軍の連合艦隊が致命的な打撃を受け、サイパン島が陥落し、大本営はフィリピンを戦場と定めました。

劣勢に陥っていた航空兵力を補うため、すでに何度か行われていた自発的な体当たりではなく、航空機に爆弾を搭載し、艦船に搭乗員もろとも体当たりする組織的な航空特攻が始まりました。

この時期、航空特攻以外にも、魚雷を改造し爆弾を搭載した一人乗り人間魚雷



八重山諸島小浜島（沖縄県竹富町）に残っている震洋格納壕跡

納庫に飛び込みました。

「スワニー」は大破、戦死 71 名、負傷 82 名と記録されています。

家族の思い

光雄さん戦死後、翌月 11 月 13 日夜、ラジオ放送により戦果の報道があり、特攻隊員の一人一人の名前と出身地が発表され、その中に滝沢光雄さんの名前がありました。

久男さんは、後年、次のように記しています。

突然のことで、家族皆半信半疑でいた。朝、門を開けに出ると、新聞記者が取材に来て、そこで初めて実感が湧いてきた。

父は当時公職の立場から、「光雄は天晴れな働きをしてくれた。また良い死に場所を得た」と少しの動揺も見せなかった。

一方母は、「よくやってくれた」とは言っていたが、どこか淋しげな感じを隠せなかった。

私も立派な働きをしたんだなあと思ったが、反面兄

「回天」による水中特攻、爆弾を搭載したベニヤ板製の水上特攻艇「震洋」による水上特攻などの訓練が行なわれていました。

昭和 19 年 10 月、レイテ沖海戦において、海軍で最初の航空特攻隊となる、神風特別攻撃隊（敷島・大和・朝日・山桜隊）が編成されました。

指揮官（敷島隊隊長）の関行男大尉（海軍兵学校出身）を除き、隊員の全員が、昭和 17 年 4 月に土浦海軍航空隊に入隊した海軍飛行予科練習生（予科練）出身者で、20 歳にも満たない少年たちでした。

その中に、坂城町（旧南条村）出身の滝沢光雄さんが含まれていました。

生い立ち

滝沢光雄さんは、旧埴科郡南条村鼠宿出身、兄弟は男五人、女五人の四男として生まれ、父親が村長、生家は明治天皇巡幸「小休所」という家庭環境のもとで成長し、南条国民学校、上田中学校（現上田高校）修了後、

海軍飛行予科練習生として、土浦海軍航空隊に入隊しました。

光雄さんの弟・久男さんによると、幼い頃から我慢強く、思い込んだら最後まで成し遂げる強い信念と実行力を持っており、中学三年の頃から偉人伝を読み耽り、西郷隆盛、乃木希典、東郷平八郎の肖像画を壁に貼り、物思いに耽ることが多く、この頃から大空への憧れがあったのではないかとのこと。



滝沢光雄さん

死の覚悟

昭和 17 年 3 月、土浦海軍航空隊入隊のため、久男さんは北塩尻駅（現西上田駅）まで兄を見送りました。

別れ際に、一生懸命勉強し、家のこと、妹たちのことを頼む、特に両親への孝養を頼むと言われ、両親への手紙を託されました。その内容を紹介します。

私は兄のひたむきな魂を、今も美しく、立派だと思っている。

おわりに

参考文献である、「山脈を超えて」は、町福祉課（現福祉健康課）の老人福祉生きがい事業として発刊されました。

延べ 200 名を超える町民の方の自分史が掲載されており、戦争体験以外にも、激動の昭和を生き抜いてきた先人たちの体験談が掲載されています。

「元気で征って参ります。二、三年来光雄は御両親及び兄上達に迄、ことごとく至らぬ事が多いため注意を受けましたが、伸び行くものはその前に必ず収縮するものです。鎖国という収縮の状態があつてこそ、維新の大業が出来た譯です。光雄も色々の不孝もありましたが、しかし、それは私の将来の悠々たる伸長に対する準備期であつたのだと考えておゆるし下さい。熱意、努力、服従、忍耐等全霊を傾けて精励致しますから決してご心配下さいますな。また光雄には確固たる自信があります。どうかご両親様には、深い信頼の目で光雄の将来を期待して下さい。最後にご両親様のご健康をお祈り致します。尚父上は老齢に加へて血圧が高いのですから呉々もご自愛下さい。」

入隊から約 2 年後の昭和 19 年 3 月、第一線出動の前に三日間の休暇を得て、南条村に帰郷しました。休暇が終わり、帰隊する

「山脈を超えて」は町福祉健康課で販売しているほか、町立図書館で貸出を行っています。

【参考文献】

「山脈を超えて」（第九回生）「特攻で散った兄を偲んで」（滝沢久男）「山脈を超えて」発行委員会（事務局 坂城町役場福祉課）

伊藤純郎「航空特攻隊空に散った信州人」信濃毎日新聞社

金子敏郎「神風特攻の記録」光人社

際、「今度帰って来るときは、軽くなって来るよ」と笑顔で別れました。久男さんはその時、意味もわからず、気にも留めませんでした。その時すでに光雄さんには覚悟が出来ていたのだと思われま

出撃

光雄さん所属の山桜隊の初出撃は、昭和 19 年 10 月 22 日、そのわずか 3 日前の 10 月 19 日に特攻隊編成の旨が隊員たちへ伝えられました。初出撃は、天候不良により敵艦隊を発見できず帰投。10 月 25 日、フィリピン・ミンダナオ島のダバオ基地を出撃した山桜隊は、ついに敵空母を捕捉。

日本側の記録では、滝沢機は消息不明とされていますが、連合軍側の記録によると、山桜隊一番機は敵戦闘機に撃墜されてしまったが、二番機の滝沢機は護衛空母「スワニー」に急降下、対空砲火を浴び煙を出しながら、真逆さまに突入、空母後部のエレベーター前方の飛行甲板に命中し、格

長野大学坂城町講座『平和について考える特別授業（地域の戦争跡地を巡る）』

8 月 6 日（水）、戦後 80 年平和学習事業として、長野大学坂城町講座「平和について考える特別授業」が開催され、町内外合わせて 5 名の小学生が参加しました。

午前は、上田市内に残されている旧飛行場など

の戦争遺跡を巡り、戦争が自分たちの身近な場所で見えてきたことに子どもたちはとても驚いていました。

午後は、長野大学の学生による講義で、当時の出来事や、生活の様子について真剣に学んでいました。



上田市仁古田に残っている飛行機部品半地下工場跡（完成前に終戦）